

仕事納め式にあたり一言ご挨拶を申し上げます。

先ずはじめに、このたび発生しました海難事故についてお伝えしなければなりません。

既にご承知のように去る 24 日未明、島根県浜田市沖およそ 48 キロの日本海で館浦漁協所属の遠洋まき網漁船第 1 源福丸が操業中に沈没するという痛ましい事故が発生しました。

本日までの結果として乗組員 20 人のうち 2 名が死亡、3 名が行方不明という大惨事となりました。

早速同日早朝、館浦の生月船員福社会館に私を本部長とする第 1 源福丸沈没事故平戸市対策本部を設置して浜田市並びに第 8 管区海上保安本部との連絡調整及び情報収集をはじめ寺田副市長を現地に派遣するなどの緊急業務にあたりました。

残念ながら関係機関の懸命の捜索にも拘わらず依然として行方不明者の消息が掴めぬまま推移しております。

再びこうした悲惨な事故によって尊い命が奪われるということはあるはずではありませんが、本市の主要産業の一つである漁業振興の今後が懸念されるところであります。

このうちは亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、行方不明者の一刻も早い救助を皆さまとともに待ちたいと思います。

さて、今年もあっという間に年末を迎えました。振り返ればいくつもの事業を通して顕著な実績をおさめることができました。

最初に取り上げられるべきは「ふるさと納税制度」による全国からの寄附額が 11 億円を突破したことです。このことは 3 年前から取り組んできた物産戦略に加えてそれぞれに担当する職員が組織横断的に連携し、生産者が送り届ける物産品の魅力とともにお客様目線に対応できる担当者のアイディアと能力の結実であると高く評価したいと思います。

また、その他に感動的だったのは、長崎がんばらんば国体の相撲と軟式野球の両競技が平戸市において盛大に開催され、多くの選手や監督をはじめ大会関係者をお迎えできたということでもあります。

軟式野球競技には三笠宮淋子殿下もお越しになられましたし、何よりも相撲競技成年団体の部で見事 2 連覇の快挙を果たしたことは、選手諸君はもとより市民の皆さんとともに感動を共有することができ、大きな喜びとなったことでもあります。

その他にも、今や世界の舞台で活躍しておられる我が平戸市名誉大使 西本智実さん率いるイルミナート合唱団と交響楽団をお招きし、カクレキリシタンの祈り「オラショ」を復元した画期的なコンサートが本市で開催されたことと、このことが呼び水となった

かのように「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の世界遺産登録国内推薦が決定したこと。

また、全国に先駆けて「平戸市CO₂排出ゼロ都市宣言」に続いて全国風サミット in 平戸を再生可能エネルギー推進平戸大会として開催し、有意義な政策提言ができたこの成果によって平戸市がクリーンエネルギーを推進し、恵まれた森林資源を活用することにより低炭素社会の実現を先進的に進める自治体として注目を受けるに至ったことなどが挙げられます。

しかしながら、こうした輝かしく素晴らしい実績があったとしても、最初に述べたような悲しい出来事が起きてしまうと感動や喜びも水泡に帰してしまいます。

思い起こせば4月の初めには市内の小学生が車にはねられお亡くなりになるなど、高齢者を含め、お二人が交通事故で尊い命を失っておられますし、一方で悪質な振り込め詐欺によって多額の財産を失う事案も発生しています。

このような思いがけない事故や不幸な出来事を全て未然に防ぐことは困難なことかもしれません。しかし、細心の注意を払いながらお互いに用心を呼びかけ、安心安全の体制づくりを築いていくことこそが私たちの至上命題であると思います。

新しい年は本市が合併して10周年の節目となります。市内各地で自主防災組織が着実に組織化されていますし、ますます安全で暮らしやすいまちづくりが求められています。このためには「自助」「公助」「共助」の三つの柱が絡み合っこそ万全の体制が構築されます。

さまざまな不安要因を想定し、真に住み続けたいくなるような地域社会を市民の皆さまとともに創ってまいりましょう。

そして迫りくる難題山積みの状況に対応できる新しいコミュニティのあり方を市民の皆さまとともに研究実践し、これを次の世代に引き継ぐことによって、「ふるさと平戸」に生まれた誇りを感じてもらえるようなまちづくりに皆さんとともに邁進する決意であります。

最後になりましたが、本日は吉住議長、田島副議長、松瀬議員、辻議員、山内議員には、わざわざご臨席を賜りご激励を頂きましたこと誠にありがとうございました。

来年も引き続きご指導ご助言くださいますようよろしくお願い申し上げます。

以上をもって仕事納めのご挨拶と致します。